

アコギの魂ひやくまで

masa sumidé



～『アコギの魂ひやくまで』リリースに寄せて～

僕は、1999年から今日に至るまで、毎年CDを発表してきています。そして、今回の『アコギの魂ひやくまで』で19作目。かたくなに「1年1枚」を続けている理由は、自分の座右の銘である「昨日より今日、今日より明日」をギターで実践することと、自分に創造的なチャレンジを課して、更なる高みを目指したいということに他なりません。改めて、「我ながらここまで、よく頑張ったなあ」と褒めてやりたい気分ですが、まだ先がありますので(そう願いたい!)、今回は、ひとまず止めておきましょう。

さて、本CDにはオリジナルの15曲が収録されていますが、どの作品もアコースティック・ギターの特性、持ち味を活かしたものになったのではないかと自負しております。いわば、“ギター愛”にあふれる1枚(笑)。近年は、テクニク面に幻惑されることはなく、「メロディー重視」がキーワードになり、良い意味で、贅肉がそぎ落とされてきた感があります。必要なところで必要なことをやる、という考え方ですね。そんなコンセプトの中から、15人の赤ちゃんは生まれてきました。

本作品が一過性の存在で終わるのではなく、タイトル通り『アコギの魂ひやくまで』と、末永くお付き合いいただける存在になることを祈っております。ギターでつながる「縁」、「出会い」、そして「再会」に感謝！

末尾になりましたが、今回、久しぶりにレコーディングでお世話になったMusic Well Studioの戸田篤志さん、そして、デザインなどアートワーク全般で腕を振るってくれたsasakikazuhisaさんに心より感謝いたします。

2017年、春
住出勝則 (Masa Sumide)

※【注記】ライブ、録音とも「全弦半音下げ」で演奏しておりますが、下の各タイトル横のチューニング表記は、便宜上、通常のキーでの表記となっておりますので、ご留意ねがいます。

1 あなたを忘れない—Standard

これまでずっと応援してくださったファンの皆さんに捧げる1曲。タイトルは「これしかない！」と、最初から決めていましたし、アルバムの一曲目にする決めていました。たくさんのがどう」を詰め込んでお届けいたします！

5 Funky Time—DADGBD (Gt 1)、Standard (Gt 2)

このCDにはセルフ・デュオの曲が2作品収録されていますが、まずは、これ！この手の曲は説明は入りませんよね。とくに、マイナーで弾んだ感じの曲は、僕の得意分野もありますので、「水を得た魚」状態。

Gt 2のほうは、エレキギターの感覚で弾いてみました。

2 My Heart Belongs To You—EADGBE ♫

ポップな雰囲気のバラードですが、切なく響くかもしれません。おそらく、一弦を半音下げたチューニングが、そう感じさせるのかもしれませんね。タイトルは、「僕の心は君のもの」というニュアンスで、恋愛相手のことが好きで好きでしようがない、という感じ。

6 大人の子守歌—DADGBE (5カポ)

最近は、「シンプル」という言葉も、自分の中で重要なキーワードになってきています。シンプルといえば、ともすれば、右から左へさらっと流れてしまいがちですが、僕の目標は「素朴なゆえ、心に残る」です。さて、この曲、それを達成できたでしょうか…

7 Me and My Guitar—EADGBD

僕が初めてギター音楽に出会ったのは、12歳のとき。「ベンチャーズ」のエレキギターの音に、とてつもないショックを受け、それ以来ずっとギターとの恋愛は続いている。この出会いがなければ、今の自分はないですから、心の底から、そのめぐり合わせに感謝していますし、幸せに思います。ちなみに、この曲のサブタイトルを日本語で表現すると、「君といつまでも」以外、考えられません！もちろん「君」とは、ギターのこと！相棒よ、ありがとう。

8 Wish You Were Here—DADFC

ギャロピング奏法 — 僕が「苦手」と公言してはばからない弾き方。でも、「チャレンジャー」の僕は、毎回、この奏法を取り入れていて、今回も数曲収録しています。タイトルは、「あ～、あなたにここに居て欲しい。そして、たまらなく会いたい」という叶わぬ願いがテーマになっています。テンポのある曲ですが、切ないです…

4 Sexy Lady—DADGAD

これまた、分かりやすいタイトル（笑）。僕なりに、世の中のセクシーな女性をイメージして作りました。メジャーキーなんですが、マイナーの要素も入っていて、その辺りも個人的にはおもしろい部分です。

9 Rainy Night in Kyoto—DADGB♭D(2カポ)

この曲の骨子はアジア・ツアーワーの最中にできました。
チューニングは、前作のカバーCD（Good Company 2）
に入っている「ピンクパンサー」と同じですが、我ながら、うまく
“京都感”と“小雨感”が出せたのでは、と満足しています。
新しい「和洋折衷」と感じていただければ、
僕の“作戦”は成功と言えます。

13 Beautiful Life—EADFAE

すばり、人生賛歌です。
2弦と3弦を1音づつ下げたチューニングですが、
それを活用した和音構成がミソかもしれませんね。
途中、転調して移りゆく人生の一幕を表現してみました。
タイトルには、「生きているうちが華」という
メッセージも込めてあります。全編、ピックで弾いています。

10 太郎と花子—DADGBE

単純明快なタイトル！
青春時代に戻って、若さをギターで表現してみたい、という狙い。
最近は、難しくて読めない漢字の名前が多いですが、僕は、
王道の「太郎と花子」が好きです！
もちろん、「レコードとカセット」も（笑）。

11 Yo・a・ke—DADGAD (Gt 1)、Standard (Gt 2)

もう1つのデュオ曲。少し懐かしい感じがする（昭和なポップ？）
作品かもしれませんね。なぜか、夜が明けていくイメージ、
幕が開く感じがしてたまりませんでした。
さて、皆さん、どう感じられるでしょうか？

12 心の声を聞かせておくれ—Standard (4カポ)

語られる言葉よりも、語られない言葉のほうが気になります。
言わないので、言えないのか。
人それぞれ様々でしょうが、恋愛しかり、人生しかり、
心の声を聞いてみたいと思う瞬間は多々あるはず…

14 ともしび—DADGAD (2カポ)

「夢」しかし、「願い」しかし、「祈り」しかし—
かすかな明るさでもいいから、
心のともしびは消さないようにしたいものですね。
そうすれば、いつかきっと、良い方向へ進めるはず…

15 そっと一人で泣いた夜—DADG♭AD (6カポ)

誰だって泣きたい時があると思います。
僕も例外ではありません。
「泣きたい時は泣きなさい。
いくつになっても恥ずかしくないんだよ。
きっと誰かがどこかで見守っているから。
泣いたあとは、次の一步を踏み出せばいい…」
と、この曲は語りかけます。



プロデューサー：住出勝則（Masa Sumide）

録音スタジオ：Music Well Studio、大阪・吹田市

ミックス / マスタリング：戸田篤志

アートワーク：sasakikazuhisa

使用ギター：Stevens Custom Guitar (made in Germany)

使用弦：Elixir Nanoweb Phosphor Bronze (Custom Light)